

研究成果 3,000 字程度 (別紙添付可)	本研究は、大学院現代沖縄研究科沖縄・東アジア地域研究専攻の事例研究コロキウムを利用し、県内外の人文学領域の先端的な沖縄研究・アジア研究に関する報告をおこない、その討議を通じて、沖縄学および沖縄研究、アジア研究の地域学の研究主体の養成と学際的発展のための方法論について検討することを目的とする。 また本学現代沖縄研究科大学院生の修士論文の研究テーマに則して、研究主体養成と大学院教育の付加価値を意識して、先端的な研究報告を受けて討議した。さらに、沖縄において関心の高いテーマを選択し、市民に開かれた研究を展開した。 具体的には、研究主体が自主的にコロキウム等を運営し、その方法を身につけることや、先端的研究や萌芽的研究の報告等に際し、関連する文献の共同討議を通じて研究成果を理解することにつとめた。 2019 年度における公開研究会は以下の通りである。 なお公開研究会に際し、専門領域に関わる大学院生が講師との交渉にあたった。また公開研究会に向けて、講師の著書、発表テーマに関連する論文等、大学院生が参考文献を選定し、事前学習をおこなった。 日時：2019 年 5 月 31 日（金）午後 6 時半～ 会場：沖縄大学本館 H104 教室 講師：田里修（沖縄大学名誉教授） テーマ：土地に見る琉球・沖縄の歴史 参考文献：田里修『土地に見る琉球・沖縄の歴史』 本学名誉教授の田里修氏を招いて開催した。田里氏は、長年、法社会学や法史学の視点から、琉球・沖縄の土地制度と社会や家族の関係を研究し、今年『土地に見る琉球・沖縄の歴史』を出版された。準備にあたっては、琉球史を研究する大学院生を中心に、田里氏の著書のレポート報告をおこなった。当日は、地理学、生物保全、言語学を専門とする教員の参加を得て、大学院生とともに活発な討議がおこなわれた。 日時：2019 年 6 月 21 日（金）午後 6 時半～ 会場：沖縄大学本館 H104 教室 講師：加藤彰彦（沖縄大学名誉教授） 参考文献：野本三吉『沖縄・戦後子ども生活史』 テーマ：沖縄の子ども観の歴史ー沖縄の戦後生活史を中心に 本学名誉教授の加藤彰彦氏を招いて開催した。沖縄の子ども観の歴史に関心を持つ大学院生が企画・講師との交渉をおこなった。当日は、本学大学院生、学部学生、教職員に加え、沖縄県内で子どもに関わる活動に取り組む市民の方々も参加して、世代を横断する地域での取り組み、子ども観の思想史、沖縄における子どもをめぐる諸課題に関して、活発な討議がおこなわれた。 日時：2019 年 11 月 8 日（金） 会場：沖縄大学本館 H201 教室 講師：田名真之（沖縄県立博物館・美術館館長） テーマ：琉球家譜について 参考文献：田名真之「琉球家譜の成立とその意義」、「琉球家譜の成立と門中」
--	--

	沖縄県立博物館・美術館館長の田名真之氏を招いて開催した。琉球王国時代の家譜に関心を持つ大学院生・研究生が企画に関わった。準備にあたっては、前田舟子氏を中心に、大学院生、研究生、学部学生らと田名氏の琉球家譜に関する論文を精読した。当日は、本学大学院生、研究生、学部学生、教員の参加を得て、活発な討議がおこなわれた。 日時：2020 年 1 月 31 日（金） 会場：沖縄大学本館 H205 教室 講師：森川恭剛（琉球大学教授） テーマ：性暴力と刑法について 参考文献：垣花豊順「米国の沖縄統治に関する基本法の変遷とその特質」 琉球大学教授の森川恭剛氏を招いて開催した。アメリカ占領下の沖縄における米軍犯罪を研究する大学院生が企画に関わった。準備にあたっては、若林千代氏を中心に、垣花豊順「米国の沖縄統治に関する基本法の変遷とその特質」のレポート報告をおこなった。当日は、森川氏がアメリカ占領下の沖縄における刑事法関連法令や裁判事例をおさえた上で、性暴力と刑法をテーマに講演が行われた。本学大学院生、特別研究員、教員の参加を得て、活発な議論がおこなわれた。
--	---